

今月のトピックス 「チャのカンザワハダニについて」

1. カンザワハダニとは

チャは数種のダニ類に加害されますが、最も重要なのはカンザワハダニ(図1)です。赤いためによく目立ち、0.5mm 程度まで大きくなるため、ルーペを使えば簡単に見つかります。チャで赤いハダニが群れていたなら、カンザワハダニと考えていいでしょう。



図1 カンザワハダニ

2. 三重県の茶園では

主に3~4月と8~9月に増加し、冬は増殖しません。3月頃気温が上がるのとともに加害を始め、年間十数世代の発生があります。葉裏で活動し、被害葉は全体が白っぽくなります(図2)、かすり状になった葉の食害痕が初期発生の目安です。被害が進むと葉の黄化、褐変、変形が起きます。



図2 カンザワハダニの被害

(写真：農業研究所茶業研究室提供)

3. 対策

近年、特に夏期には、ハダニ類の土着天敵であるケナガカブリダニ(図3)を保護活用する防除技術が確立されつつあります。ただし、摘採前の予防や夏期に急増した場合には、薬剤による防除は不可欠です。

すぐに薬剤抵抗性が発達するので、同一系統薬剤の連用は避けなければなりません。



図3 カンザワハダニ(中央)を攻撃

するケナガカブリダニ(2頭)

(写真：農業研究所茶業研究室提供)



図4 バンカー植物のチトニア(左下)

(写真：農業研究所茶業研究室提供)

4. これからの防除技術

さらに、周辺の環境を適正に保全管理することで、土着天敵類の待避増殖場所になることがわかっています。その考え方を積極的に取り入れて、チャ園付近で土着天敵類保護増殖のために、バンカー法(図4)を活用する技術が、三重県農業研究所茶業研究室で研究されています。

バンカー法とは

害虫防除を目的として、栽培作物とは異なる植物(バンカー)を圃場付近に植えて天敵を増殖・温存する技術です。バンカーで天敵の餌となる虫が増殖することで天敵が住み着きます。

樹体生育を健全にし、園地の基本管理を徹底することも、樹層を維持し、土着天敵や薬剤を有効に利用するためには大切です。

バンカー植物に関する研究成果は、三重県農業研究所のホームページで紹介されています。

<http://www.mate.pref.mie.jp/marc/SEIKA/H18/12seikaH18.pdf>